

YASUKO TAKEZAWA

「戦後とポスト 9/11～井上葉子の作品にみるメジャー/マイナー・トランスナショナリズム」

“Post-WWII and Post-9/11: Major/Minor Transnationalism in Yoko Inoue's Works”

Abstract:

終戦後、GHQ の占領下において、多くの日本の優れた美術品が購買され、海外に流出したといわれる。一方同時期、「占領下日本製」の陶器が、大量に米国に輸出され、陶器産業の復興に寄与した。現在ニューヨークで活躍中の井上葉子は、クリーブランド美術館所蔵の日本の美術品に啓発され、戦後の日米の力関係を問い直すショーを行った。

また反ムスリム・反移民感情が高揚していた 9/11 直後のニューヨークにおいて、井上は、露天商というパフォーマンス・アートを通じて、星条旗模様のセーターを売る非合法移民らと遭遇する。やがて南米の毛糸の産地に出かけ、花として編み直した商品をニューヨークで売りながら、反移民感情やグローバル化のなかで拡大する格差の問題に迫った。

本報告では、井上のこうしたアートが問いかける、メジャー・トランスナショナリズム、マイナー・トランスナショナリズムについて考えたい。

Representative works:

『新装版 日系アメリカ人のエスニシティ強制収容と補償運動による変遷』(東京大学出版会 1994) *Breaking the Silence: Redress and Japanese American Ethnicity*, (Cornell University Press, 1995)

*Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations* (U of Hawai'i Press, 2016)

「ミックスレイス日系人アーティストの作品と語り」川島浩平・竹沢泰子編『人種神話を解体するー「血」の政治学を越えて』(東京大学出版界 2016)